



●Tackle Guide

道糸は潮切れと強度のバランスから0.8号がおすすめ。リーダーはクッションの役割を果たすことから船長おすすめは6メートル。タイラバのネクタイは細身のストレート1本やソフトタイプのフォーム1つなど、シンプル仕様が実績高し。



▲キャスト用のタックルもぜひ持参したい

二枚潮を攻略する巻き方

思い切り笑っている。黒澤くんのキャストでのヒットを機に、スピニングを持つ参っている人は一斉にタイラバやメタルジグを投げ始めた。しかし、食ってきたのはマサバとホウボウ。それなりにうれしい魚だが本命ではない。そうこうしているうち、ブレずに船下を狙い続ける高木さんが1キロほどのマダイを仕留めた。ちなみに高木さんのネクタイは少数派ながらジヨーカー的存在といえる黒。撮影を終え自席に戻った黒澤くんは、ネクタイボックスをガサゴソ探り、黒いネクタイを付けるのであった。昼を前に雨が降り始めると、



▲終盤の二枚潮の中ダイを釣り上げた竹本さんの巻き方は……

タイラバにチャレンジしたいと思っている人は、まず潮時・潮位表を見てほしい。本誌の出る6月上旬は2日まで大潮、その後5日まで中潮で、次は11日の中潮から大潮をへて19日まで、そして月末の最終週にも大潮回りが訪れる。

タイラバ乗合で実績の高い走水港の政信丸のタイラバ乗合出船予定も、主に大潮、次いで中潮の日となる。

東京湾では外海上に潮の流れが潮の干満に大きく左右されるため、大潮ほど船がよく流れ、ポイントの上を広く探ることができる。

つまり、単純にいえば潮の干満が大きな日を選ぶのが定石となる。

ゴールデンウィークに政信丸へ釣行した日は大潮の初日。10時まで下げ潮で、その後は

上げ潮に転じる。北風の子報だから前半はミヨシ、後半はトモ側が有利となるはず。14名の釣り人はそれぞれ作戦を考えつつ、電話予約順に席を決めていく。

ちなみに廣川政信船長とタイラバマニアとおぼしき方によると、最近では下げ潮で食うことが多いとか。

私と本誌見習い中の新人・黒澤尚くんは左胴の間で竿を出させていた。出船前に皆さんの道具・タイラバを見て回ると、重さ80グラム、色はオレンジと赤が主流ながら、黒、緑もチラホラ。

**潮止まりに釣れた一手は？**

7時15分に港を離れて航路方面へ進み、水深47メートルからスタート。海底から10メートルを目安に巻いては落としていく。

●三浦半島走水港発↓走水沖

# 潮が効く時と止まった時 タイラバで釣れる人の理由

本誌発行人 沖藤武彦 Takeda Tetsuhiko

すでに下げ潮が効いている時間帯だけに80グラムのタイラバはやや流され、巻きの抵抗感もある。いかにも大ダイが食いそうな感じだが、簡単にはアタつてこない。

1時間ほどたつて船上の空気が冷えかけたとき、右ミヨシ寄り「きた、きた」とにぎわい始めた。カメラを出そうと首を伸ばすと、竿が深ぶかと曲がり、なかなか大物のよう。しかし、あっけなくハリの付け根を切られてしまった。

このバラシが朝の時合到来の合図となり、左ミヨシ2番、黒澤くんの隣の竹本さんが1枚目を釣り上げる。巻きはスロー、底から6メートルほどでヒットしたようだ。

直後、レデイバグ大好きな河原さんもキヤッチ。さあ次は大ダイと意気上がる。

が、ここでアタリが途切れ

このバラシが朝の時合到来の合図となり、左ミヨシ2番、黒澤くんの隣の竹本さんが1枚目を釣り上げる。巻きはスロー、底から6メートルほどでヒットしたようだ。

直後、レデイバグ大好きな河原さんもキヤッチ。さあ次は大ダイと意気上がる。

が、ここでアタリが途切れ



▲政信丸は予約電話を受け付けた順に乗船して好きな席を確保するので、席取りに慌てなくていい



キャストタイラバで色めき立つなか、船下を狙ってマダイを掛けた高木さん

**知得!**  
Tips and Tricks

## 潮が流れない日には キャスト& メタルジグも効く!

政信丸へ再び釣行した5月12日は潮が動いていなかった。そんな状況下で右ミヨシで竿を出していた古館さんは、メタルジグで船中4枚のうち3枚のマダイ釣り上げた。釣り方を聞くと、「20メートルほどキャストして底まで落とし、2〜3回ジャクつたあととタダ巻きて食ってきました」とのこと。

ヒットルアーはボーズレスのトウキチロウTG 60グラムの緑金カラー。潮が流れない日はキャストで斜め引きができるため、メタルジグ、キャストタイラバには好都合。スピニングタックルも持参して潮止まりの時間を攻略しよう。

(取材/黒澤尚人)

▶5月12日は潮が流れずメタルジグの独壇場になった



●船宿information

三浦半島走水港

## 政信丸

☎046-843-2393  
(詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=タイラバ乗合1人1万150円(水付き)  
▶備考=予約乗合。乗船は電話予約順。ほかアジ、タチウオ乗合、各種仕立受付

廣川 政信船長

こうなると道糸は前に後ろにフケてしまい、80グラムのタイラバでは安定せず、100グラムでも足りず、120グラムでようやく着底がハッキリするほどの難しさ。

雨の多い今年には二枚潮に備えてタイラバは120、あるいは140グラムまで持参したほうがよさそう。

そんな二枚潮に苦戦する中、この日のシメとなるマダイを釣り上げたのは1枚目を釣り上げた左2番の高木さん。

実は竹本さん、一貫して毎秒50センチ前後のスローな巻きだった。速潮や二枚潮でタイラバがフケ上がりやすいときには、底層をじっくり、ゆ

っくり巻いて探るのがよかったのかもしれない。

その後、5月12日。中潮の日に黒澤くんが再び釣行したときの様子はカコミ記事とおり。潮が動かない日にはやはりキャストが効くようだ。そしてその3日後の15日、大潮を迎えると政信丸では2.7キロを筆頭に釣果が上向く。

中潮であればキャストの用意を、大潮であれば二枚潮対策を。釣行できる日と、潮回りを見て、作戦を練ってみると面白いかもしれない。

さて。6月のタイラバは大ダイが釣れる季節でもある。くれぐれも油断せず、道糸とハリはチェックしておいてください!